

公益社団法人 東京都臨床検査技師会

令和2年度 事業報告書

(事業年度 令和2年4月1日～令和3年3月31日)

I. 総論

令和2年度事業執行の概要を報告する。

当会の事業は、「臨床検査技術の研究開発を図るとともに、臨床検査技師、衛生検査技師の倫理の高揚並びに資質の向上を図り、もって臨床検査の普及啓発を行い、人々の健康増進、医療・公衆衛生の向上に寄与することを目的とする」と定款に定められていることから、定款や各諸規程に基づいて執行されなくてはならない。

令和2年度の都臨技事業においては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による感染拡大防止の観点より令和2年2月18日より活動を自粛し、6月19日に解除したものの感染拡大の第2波・第3波によりなかなか予定通りの事業執行ができない状況が続き執行率が低い事業が多く認められる。多くの方が集まる状況を回避する為、会場開催による研修会・学会等は中止としWebを利用した開催とした。また、各種会議についてもWebを利用した会議を基本として開催した。今年度の事業展開は縮小を余儀なくされたものの新たな様式による発見も認められた。その一つが、第15回東京都医学検査学会であり、星野眞理学会長(公財 結核予防会 複十字病院)のもと多くの会員の方にご参加いただき成功裡に終わったことは、今後の学会事業のあり方に一石を投じたのではないかと。同様にWeb研修会についても研修会会場に行かずに参加できることから、これまで参加することが難しかった会員の方にも参加いただくことができ、結果として多くの会員の方の参加が認められた。また、今年度は広報事業の新たな展開としてSNS等を用いたリアルタイムな広報活動・ホームページに会員専用ページを作成し、学術情報を含めた会員向け情報提供ができるよう準備した。

個別事業の執行報告は以下の各論に記載されている事業となる。

II. 個別事業の報告

1. 公共目的事業について

(1) 臨床検査の普及啓発事業

臨床検査に関する最新の話題を都民及び会員双方に提供する研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を最優先するため開催を見送った。また、検査技師養成校との教育施設連絡者会議では、都臨技と養成校の連携をさらに強化し、国家試験模範解答作成や新カリキュラムやタスクシフティングの情報提供を行った。

1) 都臨技フォーラム

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止とした。

2) 教育施設連絡者特別講演会

2022 年度より、新カリキュラムが施行されることや、医師の働き方改革などにより臨床検査技師の業務拡大が直近の課題となっている。この大きな変化に対応するため、教育施設の先生方にも理解と協力していただく必要がある。そこで、日臨技の横地氏に講演していただくことにした。

このような講演会は、施設連絡者会議が発足してから、初めての試みであったが、参加いただいた先生方には好評であった。今後も最新の話題提供を実施して行きたい。

開催時期:令和3年3月5日(金)

開催場所:Zoom形式によるWeb講演会

実施内容:2022年度から開始される臨床検査技師教育新カリキュラムについて

臨床検査技師業務タスクシフティングについて

講師名(所属):横地 常広 技師(日本臨床衛生検査技師会 代表理事 副会長)

参加人数:会員16名、非会員22名、計38名

3) 検体採取実技講習会

臨床検査技師の業務拡充と病棟業務実践のみならず、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い検体採取への取組が重要となったことから、①身近な施設の実例から運用ノウハウを学ぶ、②実施に必要な知識および実技を復習する、③実技のスキルアップ方法を学ぶ、の3点を目的に、シミュレータを使用しての実技講習会を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、対面講習会開催を見送った。

(2) 人々の健康増進、医療・公衆衛生の向上の為の地域保健共催事業

都民を対象に健康増進や医療に関する知識および公衆衛生の向上を目的とした事業であり、臨床検査の正しい知識を提供し安心・安全な臨床検査の理解を深めていただくものである。2020年度も多く公共団体主催事業および他団体主催事業に積極的に参加協力予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、すべての事業が中止となった。また、学生を対象とした臨床検査技師の業務や臨地実習に向けての心構えなどの講演会も対面講習会は見送った。予防啓発事業としてSTI予防活動を実施し、東京都民の医療・公衆衛生の向上に寄与した。

1) 公共事業への参加

2020年度も例年と同様、都内各地で実施される公共団体主催の「健康まつり」に参加し、血管年齢測定、骨密度測定、血糖測定のほか、認知症関連検査や臨床検査技師の業務紹介等を実施して、都民への医療・公衆衛生の向上に寄与する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、すべての事業が中止となった。

ア) 稲城ふれあい健康・医療まつり

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

イ) 江戸川区民まつり

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

ウ) 江東区民まつり

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

エ) 小平市民まつり

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

オ) 大新宿区まつり

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

カ) 大田・品川健康まつり

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

キ) いたばし健康まつり

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

2) 学生への情報提供

検査技師養成校の学生を対象に臨床検査技師会の紹介、臨地実習の心構え、就職後のステップアップにつながる資格について研修会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を最優先するため苦渋の判断により見送った。都臨技事業の理解と、会員への入会案内として学生対象説明会を実施した。

ア) 2020 年度学生対象講演会

2回開催予定であったが新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止とした。

イ) 学生対象説明会

開催時期: 令和3年2月24日(水)

開催場所: Zoom を利用した Web 説明会

実施内容: 「技師会活動と技師会に入るメリット」

参加人数: 会員 0、非会員 0、新渡戸文化短期大学学生対象学生 58 名、その他 0、計 58 名

3) STI (Sexually Transmitted Infection <性病感染・病態>) 予防活動

STI 予防委員会を中心に、高等学校・検査技師養成校・美容学校での出張講演会や、都民に向けた講演会を通じて STI の予防啓発を行った。新型コロナウイルス感染症感染拡大による影響が大きかったが、感染予防対策をとり、専門学校や短期大学、中学校での出張講演会を実施することができた。当初予定していた大学と高校は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止となった。

ア) 東京電子専門学校

開催時期: 令和2年10月8日(木)

開催場所: 東京電子専門学校

主 催: 東京都臨床検査技師会

実施内容: STI 予防啓発活動

参加人数: 会員 0、非会員 0、学生 47、その他 0、計 47 名

イ) 新渡戸文化短期大学

開催時期: 令和2年11月13日(金)

開催場所: 新渡戸文化短期大学

主 催: 東京都臨床検査技師会

実施内容: STI 予防啓発活動

参加人数: 会員 0、非会員 0、学生 78、その他 0、計 78 名

ウ) 葛飾区立青戸中学校

開催時期: 令和3年3月6日(土)

開催場所: 葛飾区立青戸中学校

主 催: 東京都臨床検査技師会

実施内容: STI 予防啓発活動

参加人数: 会員 0、非会員 0、学生 129、その他 0、計 129 名

エ) 日本大学豊山女子高等学校

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

オ) 東京工科大学

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

カ) 世界エイズデー街頭活動 in秋葉原

11月に12月1日の世界エイズデーに向けた東京都福祉保健主催の啓発イベント開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止となった。

キ) 池袋エイズフェス2020

11月に参加予定であったが、主催団体より中止の連絡があった。

4) 東京都および各種財団などの公益的活動への参加

東京都医療従事者ネットワーク参加団体と協力し、相互の参加と企画による活動で都民への医療・公衆衛生の向上に寄与する予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、全国検査と健康展は中止となった。東京都看護協会主催の看護フェスタ 2020 は、開催日の順延、開催形式は Web を利用した方法へ変更し実施した。3つのコンテンツを提供し、目的を達成することができた。

ア) 看護フェスタ 2020

開催時期:令和3年1月1日(金)～3月31日(水)

開催場所:東京都看護協会のホームページを利用した Web 開催

事業主体:(公社)東京都看護協会

主 催:東京都臨床検査技師会

実施内容:偽陽性とは偽陰性とは、唾液検体による PCR 検査について、
新型コロナウイルス検査のための鼻咽頭ぬぐい液採取、鼻孔ぬぐい液採取
3つのコンテンツを動画にて HP へ掲載した。

実施人数:看護フェスタ総閲覧数実績 1,694 名(昨年度 1,421 名)東京都看護協会発表

イ) 全国検査と健康展

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止。

(3) 臨床検査技師としての倫理の高揚と資質の向上の事業

臨床検査は患者より得られた検査材料をもって、正確な検査結果を迅速に提供しなければならない。そのため臨床検査技師は検査精度を保証した正しい値を提供するための知識と技術を習得しなければならない。その取り組みとして、新型コロナウイルス感染拡大の条件下でも各研究班は会員に対して最新の医学的知識や技術を提供し、専門領域の情報交換の場となる研修会を開催して検査技師の資質の向上を図った。

1) 学術部研修会

学術部11研究班の令和2年度の活動は「血液検査研究班3回」「公衆衛生検査研究班1回」「微生物検査研究班0回」「病理細胞診検査研究班1回」「免疫血清検査研究班2回」「輸血検査研究班2回」「生理検査研究班0回」「一般検査研究班4回」「臨床化学検査研究班2回」「情報システム研究班1回」「遺伝子・染色体研究班0回」計18(昨年度67)回の研修会を実施した。昨年度末から引き続き新型コロナウイルス感染の感染拡大防止の観点から、会場での対面式の研修会を実施することができず、残念ながら多くの研修会を実施することができなかった。しかし、後半からは Web 開催を計画し、研修会参加者延べ人数は1,128(昨年度5,581)名に及んだ。研究班幹事や講師も職場での規制があり、打ち合わせや準備も制限がある中、新たな研修会の姿を構築できた。会場へ足を運ぶ時間の省力化や子育て世代も手軽に自宅から参加できることから、1回の研

修会での参加人数の増加が見込まれるため、来年度からは参加人数の上限を100名から500名までに引き上げ、多くの会員が参加できるようにした。

ア) 血液検査研究班 参加者 合計 225(昨年度 745)名

①開催時期:令和3年1月21日(木)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 血液検査の基礎から症例のとらえ方

講師名(所属): 難波 美津子 技師(順天堂大学医学部附属練馬病院)

参加人数: 会員 83、非会員 0、その他 0、計 83 名

②開催時期:令和3年2月18日(木)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 症例から学ぶ血液検査のポイント ~ part 1~

講師名(所属): 千葉 直子 技師(杏林大学医学部附属病院)

吉田 美雪 技師(東京慈恵会医科大学附属病院)

参加人数: 会員 79、非会員 0、その他 0、計 79 名

③開催時期:令和3年3月25日(木)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 血液凝固異常が隠れてるかも, APTT延長を見逃すな

講師名(所属): 長尾 梓 医師(荻窪病院 血液凝固科)

参加人数: 会員 63、非会員 0、その他 0、計 63 名

イ) 公衆衛生検査研究班 参加者 合計 46(昨年度 85)名

①開催時期:令和3年1月29日(金)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 輸入感染症+α

講師名(所属): 佐野 和三 技師(元日本大学病院)

参加人数: 会員 46、非会員 0、その他 0、計 46 名

ウ) 微生物検査研究班 参加者 合計 0(昨年度 736)名

開催なし

エ) 病理細胞診検査研究班 参加者 合計 97(昨年度 334)名

①開催時期:令和2年10月17日(土)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 特別講習会ー細胞診スライドカンファレンスー

講師名(所属): 病理細胞診検査研究班幹事

参加人数: 会員 49、非会員 2、その他 46、計 97 名

オ) 免疫血清検査研究班 参加者 合計 140(昨年度 270)名

①開催時期:令和3年1月20日(水)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 心不全診療におけるNT-Pro BNP測定Up-to-date

講師名(所属): 桜井 みどり 先生(ロシユ・ダイアグノスティックス株式会社)

参加人数: 会員 59、非会員 0、その他 0、計 59 名

②開催時期:令和3年2月17日(水)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 甲状腺検査の基礎

講師名(所属): 村上 聡 先生(アボットジャパン合同会社)

参加人数: 会員 81、非会員 0、その他 0、計 81 名

カ) 輸血検査研究班 参加者 合計 168(昨年度 590)名

①開催時期: 令和3年1月27日(水)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 輸血検査の基礎(ABO・RhD血液型)

講師名(所属): 吉田 純平 先生(オーソ・クリニカルダイアグノスティクス株式会社)

参加人数: 会員 88、非会員 0、その他 0、計 88 名

②開催時期: 令和3年2月24日(水)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会
実施内容: 輸血検査の基礎(不規則抗体検査・交差適合試験)

講師名(所属): 柿沼 幸利 先生(バイオラッドラボラトリーズ株式会社)

参加人数: 会員 80、非会員 0、その他 0、計 80 名

キ) 生理検査研究班 参加者 合計 0(昨年度1,645)名

開催なし

ク) 一般検査研究班 参加者 合計 256(昨年度 518)名

①開催時期: 令和2年12月19日(土)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 尿定性検査の基礎 ～日当直に必要な知識と技術～

講師名(所属): 服部 亮輔 技師(日本大学病院)

参加人数: 会員 64、非会員 0、その他 0、計 64 名

②開催時期: 令和3年1月22日(金)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 円柱を見れば腎臓の病態がわかる –やっぱり大切な硝子円柱–

講師名(所属): 脇田 満 技師 (順天堂大学医学部附属順天堂医院)

参加人数: 会員 95、非会員 0、その他 0、計 95 名

③開催時期: 令和3年2月26日(金)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: がん研式尿沈査の見方 異型細胞

講師名(所属): 友田 美穂子 技師((公財)がん研究会 有明病院)

参加人数: 会員 87、非会員 0、その他 0、計 87 名

④開催時期: 令和3年3月10日(水)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会(第3回再配信)

実施内容: がん研式尿沈査の見方 異型細胞

講師名(所属): 友田 美穂子 技師((公財)がん研究会 有明病院)

参加人数: 会員 74、非会員 0、その他 0、計 74 名

ケ) 臨床化学検査研究班 参加者 合計 153(昨年度 590)名

①開催時期: 令和3年1月26日(火)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: ISO要求事項から精度管理を理解してみよう !!

講師名(所属): 宮本 博康 技師(東京慈恵会医科大学附属病院)

参加人数: 会員 72、非会員 0、その他 0、計 72 名

②開催時期: 令和3年2月09日(火)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: もう変えました? ALP・LD IFCC法への変更のポイント

講師名(所属): (1)ALP (2)LD

(1)遠藤 美香 先生(富士フイルム和光純薬株式会社)

(2)荒木 秀夫 技師(日本大学病院)

参加人数: 会員 81、非会員、その他 0、計 81 名

コ)情報システム研究班 参加者 合計 43(昨年度68)名

①開催時期: 令和3年2月25日(木)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: ”複合災害を想定した当院の活動と検査科内の情報伝達”

—発熱: オレンジタグとショートメールの利用—

講師名(所属): 林 裕之 技師(国家公務員共済組合連合会 立川病院)

参加人数: 会員 43、非会員 0、その他 0、計 43 名

サ)遺伝子・染色体研究班 参加者 合計 0名

開催なし

2)初級研修会

初級研修会は、新規採用職員や基礎的な内容の学習を目的とした会員等を対象としたものであり、内容は基礎的事項を中心とし、短期間でコンパクトにして、受講者が必要とする情報を早めに習得できるように工夫して、どの初級研修会へ参加しても同一内容の研修が受講できるよう企画した。5月から8月までの期間において、東南北3支部合同開催の研究班(輸血、免疫血清、病理細胞診、微生物)と、4支部それぞれ開催の研究班(臨床化学、一般、血液、生理)に区分し、西支部に関してはすべての研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、対面研修会開催を見送り、5研究班(輸血、臨床化学、一般、生理、血液)においてZoom形式によるWeb研修会を実施した。また、例年好評のテキスト集を事前資料として発行した。

ア)一般検査研究班

①開催時期: 令和2年12月11日(金)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 初心者のための尿沈渣入門—血球類・円柱類—

講師名(所属): 森田 賢史 技師(東京大学医学部附属病院)

参加人数: 会員 66、非会員 0、学生 0、計 66 名

②開催時期: 令和3年1月28日(木)

開催場所: Zoom形式によるWeb研修会

実施内容: 初心者のための尿沈渣入門—上皮細胞類—

講師名(所属): 森田 賢史 技師(東京大学医学部附属病院)

参加人数:会員 85、非会員 0、学生 0、計 85 名

イ) 輸血検査研究班

①開催時期:令和2年12月12日(土)

開催場所:Zoom形式によるWeb研修会

実施内容:血液製剤の取り扱いと適正使用について

講師名(所属):森 威典 技師(武蔵野赤十字病院)

参加人数:会員 53、非会員 0、学生 0、計 53 名

ウ) 臨床化学検査研究班

①開催時期:令和2年12月15日(火)

開催場所:Zoom形式によるWeb研修会

実施内容:試薬検討方法とその注意点—初級から応用まで—

講師名(所属):岡村 邦彦 技師(NTT東日本関東病院)

参加人数:会員 42、非会員 0、学生 0、計 42 名

エ) 生理検査研究班

①開催時期:令和3年2月5日(金)

開催場所:Zoom形式によるWeb研修会

実施内容:心電図検査の基礎

講師名(所属):大見 愛美 技師(東京女子医科大学病院)

参加人数:会員 72、非会員 0、学生 0、計 72 名

オ) 血液検査研究班

①開催時期:令和3年2月12日(金)

開催場所:Zoom形式によるWeb研修会

実施内容:血液検査の基礎—血算・血液像・凝固検査—

講師名(所属):甲田 祐樹 技師(東京医科歯科大学医学部附属病院)

参加人数:会員 82、非会員 0、学生 0、計 82 名

3) 支部プラスワン研修会

支部幹事主体で企画・運営される研修会で、主に他の学術研修会に参加困難な会員を対象として最新のトピックスや興味のある話題について企画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、対面研修会開催を見送った。

4) 臨床検査データ標準化事業

臨床検査の測定値は医療施設の設備環境や条件および使用する検査試薬が統一されていないことにより、同一検査項目でも測定値に差異が生じている。その差異を是正し、「どこの医療施設でも同じ“物差し”で検査データが判断できるようにする」という目的を達成するために、これまでに多くの機関、団体が標準化に向けた活動を実践してきた経緯がある。日臨技においても臨床検査データ標準化事業を全国的に展開しており、当会も標準化事業に関して独自のデータ標準化・精度管理調査を継続して実施しているところである。令和2年度は医療機関199施設、メーカー26施設、合計225施設の参加で実施し、令和元年度と比較して医療機関において7施設の減少となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で集計および解析が遅延しており、例年実施している報告会の開催も参加者を集めることは困難と判断されるためWeb上での対応を考慮したいと考えている。また、日臨技が実施している精度保証施設認定制度への取り組みは都

臨技も積極的に推進しており、その結果として令和2年度審査では都臨技所属施設の31施設が認証を更新または新規に取得した。現在、東京都内の前年度分までの施設を含めた認証施設数は58施設である。この精度保証施設認証制度は正確なデータを提供することで国民の健康増進・疾病予防の支援および信頼性保証を目的とするものであり、自施設の臨床検査値が標準化されかつ精度が保証されていることをアピールするために各施設の積極的な取得に向けた取り組みを期待している。

5) 医学検査学会

第15回東京都医学検査学会は星野眞理学会長(公財 結核予防会 複十字病院)のもと「華麗なる七変化-首都東京で求められる技師像を考える-」をテーマに当初2020年12月6日開催で準備を進めていた。しかし新型コロナウイルス感染症の流行により2021年2月28日に参加人数を制限しての会場開催と会場開催後講演動画を公開するハイブリッド方式に変更した。しかし12月からの新型コロナウイルス感染症第3波の状況を鑑み会場開催を断念、3/15~4/18までのWeb学会とした。

学会メインテーマ特別講演は、「地域医療における諸視点」講師 自治医科大学地域医療学センター小谷 和彦先生、「AYA世代ががんとともに生きる-医療と社会ができること」講師 聖路加国際病院 小澤美和先生、「文化は人の弱さに気付けるか-コロナと音楽批評の在り方」講師 東京大学大学院 相馬 巧氏 の3講演、特別講演COVID-19では、「COVID-19の全体像-疫学、診断、治療から感染対策まで-」講師 国際医療福祉大学 松本 哲哉 先生、「COVID-19の疫学動態で分かってきたこと」京都大学 西浦 博 先生 の2講演、日臨技企画として参議院議員 宮島喜文日臨技代表理事会長による「時代の潮流からみた“臨床検査技師の将来”を考える」、横地 常広日臨技代表理事副会長による「医師の働き方改革を進めるための『タスクシフト・シェアの概要と今後の進め方』」の2講演、コロナ禍の中一般演題は19演題と少なめであったが、研究班企画 5企画、資格更新単位が付与される認知症講座5講演とPOCT講座3講演、リラックス講座3講演、協賛企業からは特別セミナー5講演、機器・試薬セミナー4講演と盛りだくさんの内容で、参加を締め切った3月末の数値で会員605名、賛助会員33名、非会員5名、学生57名、合計700名を数えている。初めてのWeb学会で試行錯誤を重ねたが、134名の都外からの参加があり、好きな時に好きなだけ聴講できる、会場開催では時間が重なって聴講できない講演も聞くことができる等、好評を得ている。

6) 学術・職能支援事業

ア) ベッドサイド実践講習会(旧多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会)

当講習会は検査相談・説明のできる臨床検査技師育成講習会の後継事業と位置付けられており、多職種連携のチーム医療に参画できる臨床検査技師を育成するために看護協会、病院薬剤師会、理学療法士協会、臨床工学技士会、診療放射線技師会から講師を招いて他職種の業務等を学ぶことを目的として開催予定であった。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止とした。

イ) リーダー育成講習会

少子高齢化を迎え日本の医療・福祉は大きな転換期を迎え、臨床検査技師業務領域の見直しや改善、新たな役割が求められている。東京都臨床検査技師会もさらなる組織の活性化と強化が必須であり、急務である。その一環として、技師会で活躍できる次世代の技師育成は重要であり、組織目標達成に向けた事業展開の考え方、プロジェクト成功に向けた現状分析、課題

解決、計画立案などの手法を習得し、マネジメントスキルの向上を目指すことを目的とした。平成 24 年から各都道府県を対象に行われた、日本臨床衛生検査技師会「地域ニューリーダー育成研修会」参加役員を中心に、外部講師を招いて講義とグループワークを行う予定であった。
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止とした。

ウ) 初級・職能開発講習会(同年代の仲間とみらいを考える講習会)

卒後3年から10年の臨床検査技師を対象に医療人・職能人としてのスキルアップを目的として開催し、医療情勢の変化や多職種連携医療の中で活躍できる臨床検査技師についての講演と多様なニーズに対する臨床検査技師のあり方をテーマとしたグループワークを行う予定であった。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止とした。

(4) 機関誌の発行事業

令和 2 年度は、機関紙の発行事業として「東京都医学検査」を 3 回発行した。機関誌は、会員・賛助会員のほか、日臨技、各都道府県技師会、全国技師養成学校、各関連官庁に配布した。また、毎号メディカルオンラインへの掲載を行った。

掲載内容としては、学術部研究班で企画した臨床検査分野の特集、各研修会・講演会の要旨を掲載した。また、医療情報シリーズでは新たに 11 班目の研究班としてできた「遺伝子・染色体」をシリーズ掲載した。さらに会員からの学術論文や研究資料などが多数掲載されるように学術研究班との連携に努めた。各研修会の参加人数、生涯教育に関する事項については記録として残した。

令和 2 年度発刊

「東京都医学検査」

Vol.48 No.2(通巻 265 号)令和 2 年 6 月 6700 部

Vol.48 No.3(通巻 266 号)令和 2 年 10 月 6800 部

Vol.49 No.1(通巻 267 号)令和 3 年 3 月 7000 部

(5) ホームページ運営事業

1) ホームページの充実とリアルタイムな情報提供

広報活動の重要な柱の1つであるホームページ運営事業は平成 24 年度より事務局が掌っており、会員・非会員・都民に対し情報提供を行っている。令和 2 年度の更新回数は約 301 回を数え「掲載指示/要望書」を活用し掲載指示が正確に反映できるよう努めた。レスポンスタイム短縮への取り組みに重点を置きながら、これまでの運営事業を継続し都臨技の研修会や行事予定、各支部・各部局からの情報および活動報告、理事会議事録、都臨技会誌(東京都医学検査)の目次、日臨技からの情報や他団体が開催する研修会等で会員に有益である情報を掲載した。その他、都臨技データ標準化精度管理調査の案内、東京都内に勤務地がある施設の求人情報を掲載した。学会広報活動としては、都臨技として初となる Web 配信による第 15 回東京都医学検査学会ホームページの案内や情報発信を行った。賛助会員ページ(賛助会員一覧)の充実を図り、都臨技会誌が掲載されているメディカルオンラインのバナーを掲載し閲覧の利便性向上に努めた。ホームページには会員や非会員、関連団体、関連企業からの問い合わせ窓口としての機能もあるため、ホームページ上の「ご意見・ご要望」を通じて寄せられた問い合わせについて回答するなどの対応を行った。

2) 都臨技メールインフォメーションを活用した会員への情報提供

「メールインフォメーション」についても運営事業を継続し、都臨技ホームページの更新情報や研修会および行事の最新情報を週1回程度メールにて配信する事業を行った。

2. 相互扶助事業(その他本会の目的を達成するために必要な事業)

本会の円滑な事業執行に必要な各事業として、新人技師、非会員技師を対象に技師会活動の説明と周知を図るとともに会員獲得のための都臨技オリエンテーションの開催、また、各施設間における情報交換や本会との連携強化を図るため、合同施設連絡責任者会議を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、対面開催を見送った。

(1) 会員に対する相互扶助(慶弔規程に基づく活動)

本会は会員に対し、慶弔規程に従い慶弔の意を表し会費より運用しているが、今年度においては慶弔規程に基づく活動で特記すべきものはなかった。

(2) 会員に対する本会活動の周知、意見交換および親睦のための事業

会員獲得と都臨技活動を周知するため、また会員との意見交換を行う親睦などを目的とした以下のとおり事業を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、対面開催を見送った。

1) 都臨技オリエンテーション

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止とした。

2) 合同施設連絡責任者会議

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止とした。

(3) 会員に対する表彰とその受賞の周知事業

1) 表彰選考委員会は会員より臨床検査の発展に寄与し、各種表彰、受賞に相応しい表彰者を選考して推薦している。令和2年度各団体が募集している受賞該当者の推薦については新型コロナウイルス感染症の拡大、緊急事態宣言により該当者の推薦は行えなかった。

2) 令和2年度新春のつどい・各賞受賞祝賀会

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止とした。

3. 事業実施の財源

正会員・賛助会員・学生会員からの年会費を主たる財源とし、実技研修会等(特別講習会)の受講料、機関紙(会誌)広告収入等の事業収入および日臨技からの補助金等を財源として加えた。

4. 業務委託

機関紙の発行にともない、発送業務を委託した。

以上